沖縄県立埋蔵文化財センター　令和元年度企画展

発掘調査速報 2019

令和元（2019）年
7月30日（火）～9月1日（日）

▲普天間石川原遺跡ほか

▲鏡水原遺跡

▲首里城跡（美福門磴道地区）

▲真珠道跡

▲松崎馬場跡

▲首里高校内埋蔵文化財

目　　次

ごあいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

平成３０年度発掘調査実施箇所一覧・・・・・・・・・・・・2

鏡水原遺跡（かがんじばるいせき）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

普天間石川原遺跡ほか（ふてんまいしかわばるいせき）・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

首里高校内埋蔵文化財・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

松崎馬場跡（まつざきばばあと）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

真珠道跡（まだまみちあと）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

首里城跡（美福門磴道地区（びふくもんとうどうちく））・・・・・・・・・・・・・・・19

県内出土遺物保存処理・・・・・・・・・・・・・・・・・・22

沖縄歴史年表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24

発掘調査のきっかけ（契機）とは・・・・・・・・・・・・・25

ごあいさつ

沖縄県内には、貝塚、グスク、集落跡、近世墓などを含め約4,500カ所の遺跡が確認されています。沖縄県立埋蔵文化財センターでは、先人たちが残したこれらの埋蔵文化財の発掘調査を行い、考古学的見地から検証した成果を沖縄県の歴史・文化の解明や研究に役立てています。

通常、発掘調査が始まってから、土器や石器などの出土遺物を整理し、報告書を刊行するまでには数年の歳月を必要とします。そこで当センターでは、発掘調査で得られた最新の成果を、いち早く県民をはじめとする多くの方々に見ていただきたいとの思いから、前年度に実施した発掘調査の成果を展示公開する「発掘調査速報」展を毎年開催しています。

今年度は当センターが、2018年（平成30年）度に実施した「普天間石川原遺跡ほか」、「鏡水原遺跡」、「首里城跡（美福門磴道地区）」、「真珠道跡」、「松崎馬場跡」、「首里高校内埋蔵文化財」などの発掘調査の成果を出土遺物や写真パネルなどを通して紹介します。また平成31年3月の国の文化審議会で重要文化財指定の答申を受けた「琉球国時代石碑」の一部や、首里城跡及び天界寺跡から出土した石造品の保存処理も紹介します。

本展を通して、多くの方々が遺跡や遺物などに接し、先人たちの暮らしに想いを馳せるとともに、沖縄の歴史と文化に対して親しみを持ち、その価値や重要性について理解を深める一助となれば幸いです。

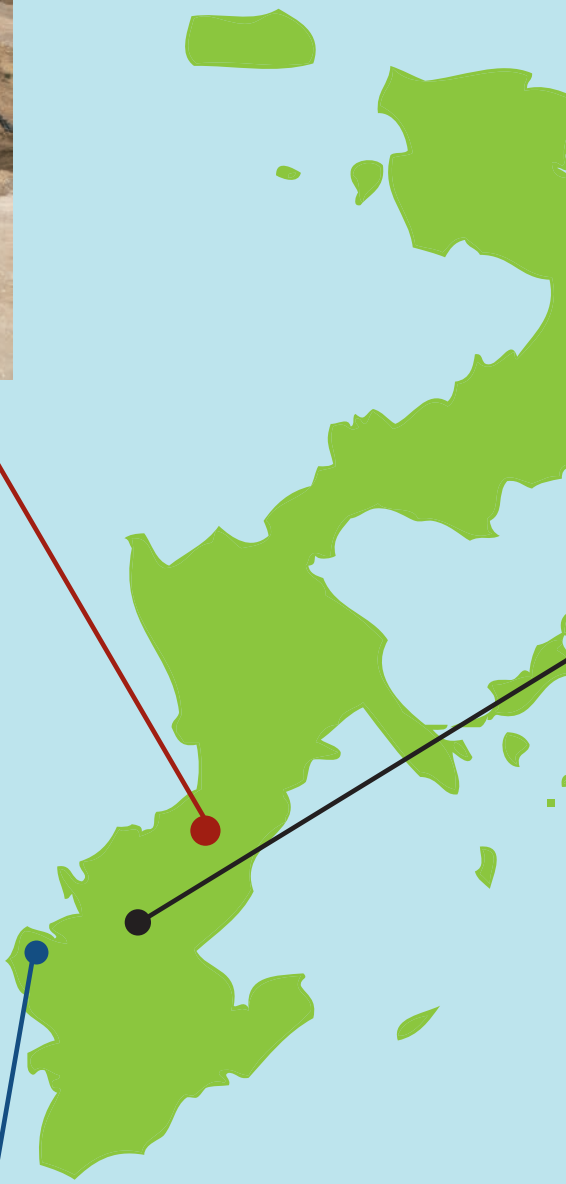
令和元年7月30日

沖縄県立埋蔵文化財センター
所　長　　城田　久嗣

平成30年度　発掘調査

普天間石川原遺跡ほか（宜野湾市）

鏡水原遺跡（那覇市）



実施箇所一覧

1 首里高校内埋蔵文化財（那覇市）

2 松崎馬場跡（那覇市）

3 真珠道跡（那覇市）

4 首里城跡（美福門磴道地区）（那覇市）

鏡水原遺跡（かがんじばるいせき）

縄文時代、グスク時代、近世～近代

はじめに

この調査は、那覇空港自動車道（小禄道路）の建設に伴って発見された鏡水原遺跡の発掘調査になります。対象となった鏡水原遺跡は道路工事のため残すことができないので、記録保存調査となりました。

発掘調査の結果、近代～近世・グスク時代（中世）の初頭・縄文時代後晩期の４つの時期の遺構や遺物が発見されました。

近世～近代（74 年前～約 400 年前）

最も多くの遺構と遺物が発見されました。遺構には四角になるように造られた溝跡や、石を敷いた跡（石敷遺構）、使っていた茶碗などを埋めた穴（土坑（どこう））などが確認されました。遺物も沖縄や日本・中国で作られた茶碗や壺などの近世から近代の陶磁器をはじめ、陶磁器を打ち欠いて作る道具（円盤状製品）、瓦や金属の道具、硯、近代のガラス瓶、当時食べていた動物や魚の骨、貝などが見つかっています。

グスク時代（約 400 年前～ 800 年前）

柱の跡とみられる穴（ピット）が確認されました。この穴を埋めていた土の中の炭化物を理化学的に分析した結果、約 1,000 年前のものであることが分かりました。遺物は僅かしか得られていませんが、中国で作られた陶磁器が出土しました。

縄文時代（約 2,500 ～ 10,000 年前）

この時代の遺構は見つかりませんでしたが、この時代の地層から縄文時代後晩期頃の土器や石器が見つかりました。また、理化学分析ではこの地層から、さらに古い時代の縄文時代早期や旧石器時代の年代が測定されています。

遺跡遠景（南から）
左に那覇空港、正面奥には東シナ海を望む。
周辺には各時代の遺跡がある。

調査区全景（北東から）
近世・近代の遺跡によって、方形の区画が形成される。

Data

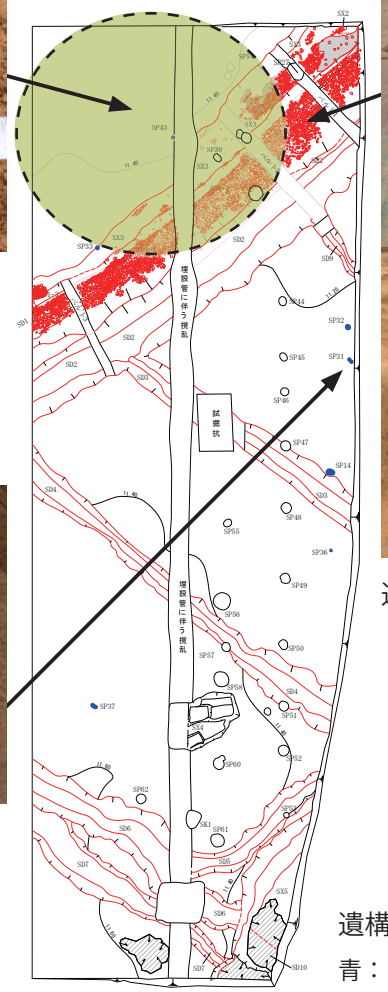
事業名　小禄道路（鏡水原遺跡）埋蔵文化財発掘調査
所在地　那覇市小禄（陸上自衛隊那覇駐屯地内）
調査期間　平成 30 年 8 月 13 日～平成 31 年 1 月 8 日　　調査面積　約 400㎡

土器出土状況（Ⅳ層）

地図の○部分に堆積するこの地層からは、このように縄文時代の土器がまばらに出土した。

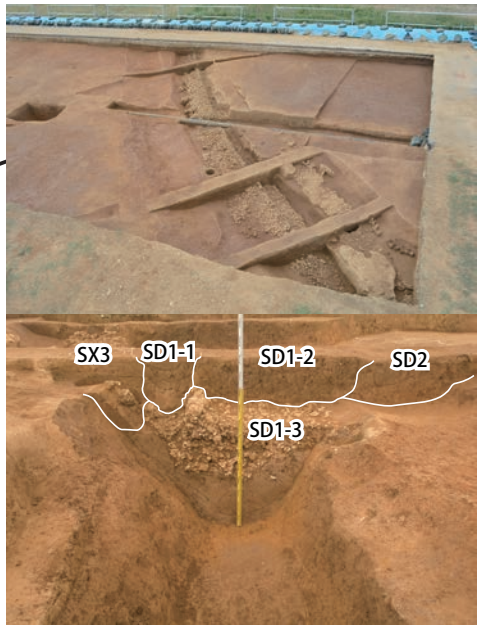
グスク時代のピット（南西から撮影）

黒い土が埋まっているのがこの時代の遺構の特徴である。



遺構分布図（赤：近世・近代の遺構
青：グスク時代の遺構）　※北向き

近世・近代の遺構によって、方形の区画が形成される。



遺跡（SD1）上：検出状況　下：遺構断面

土地の傾斜に沿うように作られている。礫を詰めたり掘り直したりするなど、3 度にわたる改変が行われている。

礫敷遺構（SX3）の主な出土陶磁器

この遺構からは近世末から近代の遺物が多く出土しており、この頃の生活が窺い知れる。

主な出土土器

縄文時代晩期のもの。
破片のため詳細は不明。

SD1-3 の主な出土陶磁器

SD1-3 からは近代の遺物が出土しなかったことから、近世の頃には埋められたようである。

普天間石川原遺跡ほか

縄文時代、グスク時代、近世～近代

はじめに

宜野湾市に所在する米軍基地キャンプ瑞慶覧内の住宅建設に伴い、沖縄県立埋蔵文化財センターでは平成 29（2017）年度より記録保存を目的とした緊急発掘調査を実施しています。東普天間住宅地区にはこれまでの試掘調査によって、普天間石川原遺跡、普天間グスクンニー遺跡、普天間下原古墓群の３つの遺跡が広がることが分かっています。平成 29 年度の調査では縄文土器や中国産陶磁器といった遺物、耕作地の可能性があるグスク時代のピット列や鍬跡のほか、亀甲墓・掘込墓などの古墓群や、壕跡等も確認され、同地区における縄文時代から近世～近代にかけての利用状況が分かってきました。

平成 30（2018）年度では前年度に引き続き、３遺跡にまたがる範囲の調査を実施しました。その結果、縄文時代、グスク時代、近世～近代の大きく３つの時期に相当する遺構・遺物が確認されました。

調査成果

縄文時代：遺構は集石遺構が確認されています。出土遺物は縄文時代後期～晩期の土器、石鏃、石斧、磨石などの石器が出土しています。

グスク時代：遺構は溝状遺構、ピット列（植栽痕）、炉跡、石列が確認されています。遺物は中国産陶磁器やグスク土器が出土しています。

近世～近代：遺構は溝状遺構や炉跡が確認されています。昭和 20（1945）年に撮影された航空写真から、戦前の東普天間住宅地区周辺は普天間集落から安仁屋集落方面へ続く道路を中心に墓地・耕作地が広がっており、今回確認された溝状遺構の一部も写真と重なることから、畑の区画であった可能性があります。出土遺物としては沖縄産や本土産の陶磁器が出土しています。

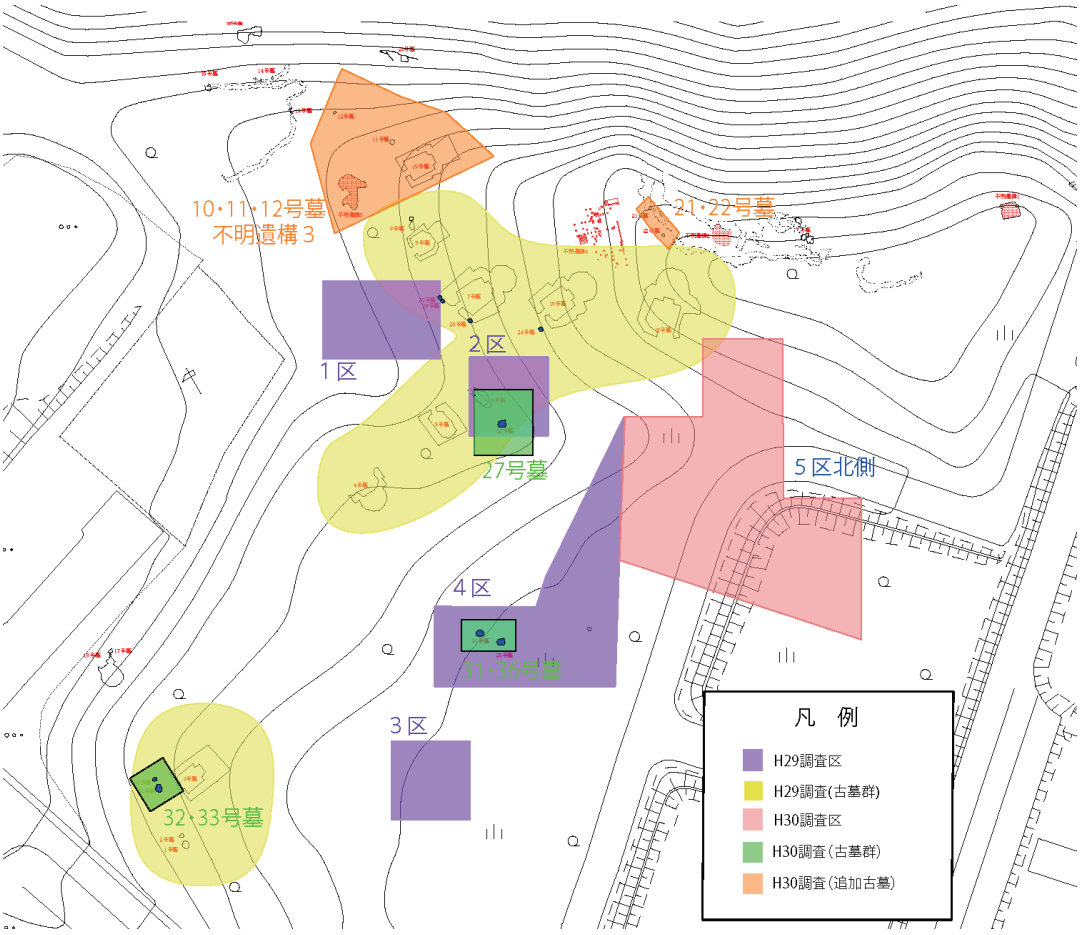
普天間下原古墓群の調査では、近世～近代の掘込墓、平葺墓、破風墓が確認され、袖垣に小さな掘込墓（仮墓）を伴うものもみられます。戦後に移転された空き墓が多く、墓庭や墓室内には基地造成時のガラス瓶や蔵骨器の破片がみられました。墓室内に蔵骨器が納められていた墓も３基確認され、いずれも蔵骨器内には人骨が残っていました。蔵骨器内には金属製品が納められているものもみられました。

Data

事業名　東普天間住宅地区発掘調査　　所在地　宜野湾市普天間（キャンプ瑞慶覧内）

調査機関　平成 30 年７月 17 日～平成 31 年３月４日

調査面積　約 4,563㎡（調査区５区北側：2,970㎡、古墓群：1,593㎡）



平成 30 年度　調査箇所

遺構検出状況（調査区 5 区北側）

平葺墓（ひらふちばか） 検出状況（近世・近代古墓群）

土器出土状況（縄文時代）

遺構完掘状況（グスク時代）

集石遺構検出状況（縄文時代）

厨子甕（ずしがめ）出土状況（近世・近代古墓群）

首里高校内埋蔵文化財

グスク時代～近代

はじめに

首里高校の敷地内には、多くの遺跡があります。その中でも今回は、次期国王となる世子の邸宅である中城御殿跡、ハゼ園と考えられるかぢ木植所跡、その両遺跡の間を走る道跡が確認されました。

この発掘調査は平成 25・26（2013・14）、平成 29（2017）年度にも行われています。後世の破壊を受けている部分もありますが、遺跡の残りが良いことから、関係各機関との調整を重ねた結果、首里高校の地中に保存されました。

中城御殿跡

中城御殿は、1621 ～ 1640 年の尚豊王代に創建されその後、明治 8（1875）年に龍潭の向かいに移転します。これまでの発掘調査では、石積みや井戸、ごみ捨て穴や、陶磁器や動物の骨などが多く確認されました。

今回の調査では、北側城壁と東側城壁の一部が確認され、中城御殿の範囲を明確に示すことができるようになりました。また、屋敷内の石積みも確認されました。この石積みは平成 29 年度の調査でも確認され、石材が海石（サンゴ石）と山石（琉球石灰岩）を組み合わせた独特なもので、非常に興味深い石積みです。

かぢ木植所跡

首里古地図をみると、かぢ木植所と書かれていますが、櫨園跡とも言われます。今回の調査では、殆どが近代の造成によって破壊され、この遺跡の痕跡を確認することができませんでした。

道跡

幅は約 5 メートルと比較的広く、路面に砕いた石灰岩を敷き固め、その両側には石で組まれた側溝を配した道跡です。路面の中央部分が若干高くなり、両側の側溝に水が流れる仕組みや、造成土に礫を用いるなど水はけをよくするための工夫が見られます。さらに道跡の両側からは石積みも確認されました。

まとめ

首里高校の下には、校舎基礎によって一部破壊されていますが、その隙間には遺跡がまだ残っていました。今回の発掘調査では、道跡が発見されたことにより中城御殿などの範囲が明確に判明し、道を作るための大きな造成層も確認され、近世琉球の町づくりの一端を垣間見ることができました。また、近世以前のグスク時代の柱穴や石組み遺構なども確認され、古くからこの土地に人々が生活していたことが再確認されました。

Data

事業名　首里高校内埋蔵文化財発掘調査　　所在地　那覇市首里真和志町 2 丁目首里高等学校敷地内
調査期間　平成 30 年 9 月 12 日～平成 31 年 4 月 24 日　　調査面積　2,683㎡

首里古地図（1910 年具志氏模写図）（沖縄県立図書館所蔵 CCBY4.0 一部加筆）
（http://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja）

首里古地図と調査区重ね図

道跡（南から）

平成 29 年度　中城御殿内石積み

平成 30 年　中城御殿内石積み

柱穴群

石組み遺構

松崎馬場跡

近世～近代

はじめに

松崎馬場跡の発掘調査は、県営首里城公園の整備にともなう遺跡の範囲と内容確認を目的とした調査です。過去には、平成 21（2009）年度と平成 23（2011）年度に調査が行われ、近世の造成層、近代の造成層、道跡などが見つかっています。

松崎馬場跡

松崎馬場跡とは、龍潭の北東側に面する広場および道跡の残る遺跡です。『冠船之時御座構之図』に収められている「重陽宴松崎之図」には、1866 年の冊封使来琉時に爬龍船競争を観覧し、もてなした際の会場の設営状況が描かれています。

1801 年には東側に隣接する場所に首里王府の教育機関である国学が設置され、廃藩置県後の明治 19（1886）年には沖縄県師範学校が国学跡に設置されました。しかし、昭和 20（1945）年の沖縄戦で師範学校の校舎は破壊され、戦後は小学校敷地や琉球大学男子寮を経て、現在は沖縄県立芸術大学当蔵キャンパスに隣接する場所に国学跡の石牆、石溝、階段が県指定史跡「国学・首里聖廟石垣」（平成 5 年 6 月 11 日付）として保存されています。

調査内容

平成 21、平成 23 年度の調査は、過去の道跡を復元するための基礎データを得る目的で行われ、平成 23 年度調査のトレンチ 2 において、道の縁石と路面に敷かれた石粉が検出されました。

今回の調査では、平成 23 年度調査のトレンチ番号から続けてトレンチ 3、トレンチ 4 の 2 ヶ所を設定し、調査を行いました。トレンチ 4 では遺構は見つかりませんでしたが、トレンチ 3 では沖縄県師範学校の時期と考えられる石牆や、それにともなう石溝、階段遺構が見つかりました。現在地表面で確認できる階段のほかにもうひとつの階段が確認できたことは大きな成果です。階段と石牆のあいだには琉球石灰岩製の蓋が残されており、暗渠であったことも確認できました。

今回の調査の出土遺物は、中国産青磁や中国産白磁、中国産染付、本土産陶磁器、沖縄産陶器、瓦、レンガなどが出土しています。

今回の調査で確認した遺構は、現地で図面や写真などの記録を行った後、遺構保護を行いながら埋め戻し、現地保存をしています。

Data

事業名　首里城公園発掘調査　　所在地　那覇市首里当蔵町 1 丁目 1 番地

調査期間　平成 30 年 10 月 18 日～ 12 月 27 日　　調査面積　約 40㎡

平成 23 年度　トレンチ 2　検出の道跡

トレンチ 3　完掘状況

トレンチ 3　階段遺構検出状況

トレンチ 3　石牆、石溝検出状況

真珠道跡（まだまみちあと）

グスク時代～近代

はじめに

真珠道は尚真王（しょうしんおう）代 (1465 ～ 1527) に首里王府によって整備された道です。整備された当初 (1522 年) は首里から真玉橋（まだんばし） (現在の豊見城市) までの約 4 km が整備されましたが、その後 1553 年には那覇港 (現在の那覇市住吉町) まで延長され、約 8 km の石畳が続いていたとされています。

当時、各地では倭寇（わこう）が猛威を振るっており、攻め込まれた時に対策を取ることが出来るようにするため、真珠道を整備したとされています。尚真王は那覇港に倭寇が来襲した際には真珠道を通って兵を派遣し、南風原、豊見城の真玉橋を通り那覇港の南側 (垣花（かきのはな）) へ向かったとされています。

調査成果

真珠道跡の調査は首里城公園の復元整備のために、遺構を確認することを目的として現在まで行われています。これまで平成 15（2003）年から平成 19（2007）年、平成 28（2016）年と複数年に渡って行われてきました。その結果、真珠道に隣接する綾門大道（あやじょううふみち）との境目となる起点部分などが確認されてきました。

平成 30（2018）年度の調査では、道路整備を行う前の遺構確認として調査を実施しました。調査の結果、真珠道のものと考えられる石畳の跡や、排水のための側溝などが見つかっています。また、遺構とともに、青磁（せいじ）や白磁（はくじ）、染付といった中国産や本土産の陶磁器のほか、沖縄産陶器や瓦などの遺物が見つかっています。

遺構（石畳跡、側溝）

今回の調査で見つかった石畳の道は、道幅が約 360cm（約 2 間）、南から北へ約 7 ～ 8 度傾いた緩い坂道になっています。道の中心から東西に 4 度ほど傾き、その両側には排水溝が作られて、雨水などが溝へ流れ込むつくりになっています。石畳の下の層を確認してみると、硬い粘土質の土の上に 10 ～ 20cm の礫（れき）を敷き詰めて作られていて、地面に水がしみ込まないように工夫されて作られていることがわかりました。

溝の作りも石畳と同様に、硬い粘土質の土の上に石を敷き詰めるようになっていて、底の石は 20 ～ 30cm ほどの琉球石灰岩を平たく加工しています。その両側には溝の壁となる石が並べられています。

Data

事業名　首里城公園発掘調査　　所在地　那覇市首里真和志町 1 丁目 7 番地 1 地先（守礼門付近）

調査期間　平成 30 年 6 月 15 日～ 11 月 16 日　　調査面積　約 142㎡

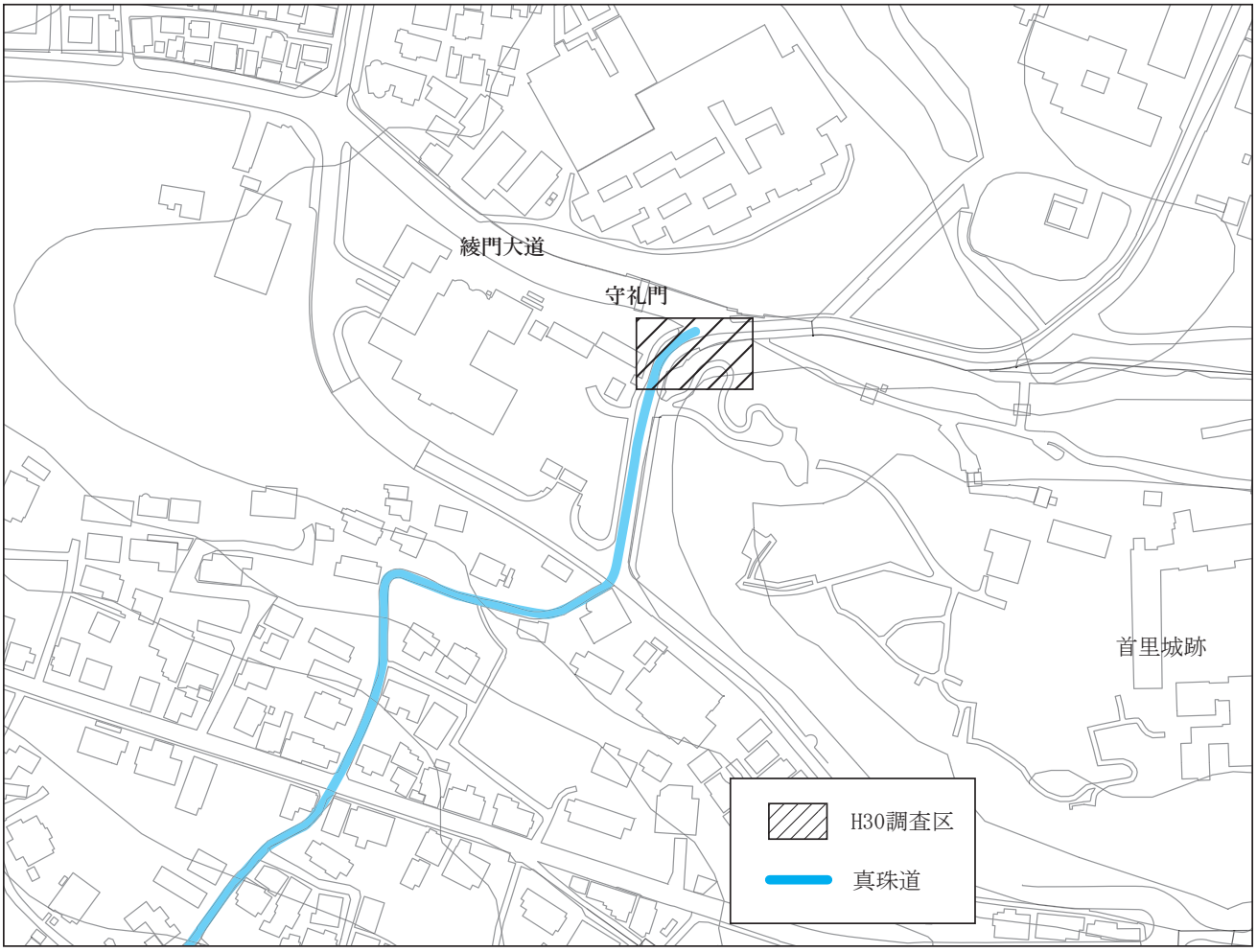
溝の幅は約 30cm（約 1 尺）、深さは約 15cm で、こちらも琉球石灰岩で作られていますが、幅 30 ～ 40cm の細長い石を使っており、また、一部の壁では石灰岩の大きな岩そのものを溝の壁として利用している状況が見られました。溝の蓋（ふた）になるような石は今回の調査では見つからなかったことと、溝自体がそこまで深さのないものであり、蓋をすると溝が塞がってしまうと考えられることから、蓋はされていなかったと考えられます。

また、石畳の西側では、溝の側から 60cm ほどの幅の範囲で石が外され、その下 60cm ほどの深さまでくり抜かれ、電線が埋まっていました。おそらく、戦後に行われた道路整備などで埋設したものと考えられます。

まとめ

真珠道付近の道路整備は、これまでに行われてきた発掘調査の成果をもとに、その位置や幅などを出来る限り当時の状況と重なるように行われています。今回の調査で得られた石畳跡などは、今までの調査成果では想定であった道幅などのデータを裏付けるものであり、今後の整備においても重要な発見であるといえます。

今回検出した遺構などについては、現地にて保護し、その上に道路整備がなされています。現地を訪れた際には、当時の景観の雰囲気を感じることができるでしょう。



平成 30 年度　調査区位置図

完掘時状況（北より南を望む）

道路整備後状況（北より南を望む）

検出された石畳と両脇の排水溝（北より南を望む）

西側溝内状況（北より南を望む）

東側溝内状況（南より北を望む）

電線埋設部（北より南を望む）

石畳下推積状況（北より南を望む）

首里城跡（美福門磴道地区）

グスク時代～近世

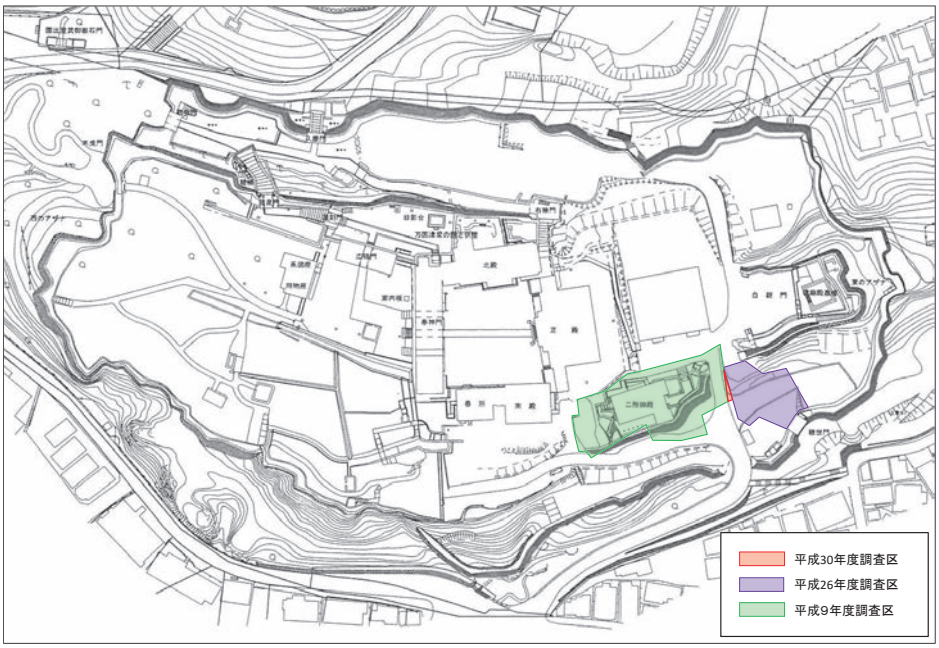
はじめに

本事業では、沖縄戦で焼失した首里城の復元整備に先立ち、必要な情報を得るために発掘調査を実施しています。平成 30 年度は、下図に示した「美福門磴道地区」で発掘調査を行いました。

調査成果

この地区は、平成 9（1997）年度に調査した二階殿地区と、平成 26（2014）年度に調査した継世門北地区に挟まれた場所です。発掘調査の結果、遺物の出土は確認されませんでしたが、美福門から南東方向に伸びる階段遺構が検出されました。

この階段は「磴道」とも呼ばれるもので、緩やかに傾斜する幅広の踏面と、高い蹴上げという独特の形態を持っています。階段遺構は、隣接する継世門北地区で 1 段～ 14 段まで確認されていますが、今回の発掘調査では 10 段～ 13 段の西側延長部分に加え、13 段の西側で側面に相当する部分が検出されました。これにより、階段の幅員が 13 段部分で約 5.7 mを測ることや、琉球石灰岩の基盤層を階段状に加工し、その上に石材を敷設するという構築方法などが判明しました。年代については、遺物の出土がなかったため判然としませんが、隣接する継世門北地区の成果から、15 世紀～17 世紀頃と考えられます。



平成 30（2018）年度　調査区

Data

事業名　首里城跡発掘調査　　所在地　那覇市首里当蔵町 3 丁目 1 番

調査期間　平成 31 年 1 月 7 日～ 1 月 16 日　　調査面積　約 30㎡

階段遺構（磴道）1

階段遺構（磴道）2

平成 26・30（2014・18）年度　遺構全景

県内出土遺物保存処理

グスク時代～近世～近代

はじめに

沖縄県立埋蔵文化財センターが発掘調査を行って出土した遺物の中には、金属製品や木製品、石造物などの時間とともに劣化していく材質のものが含まれます。この事業は、これらの遺物について長期的な保存や公開等に活用するため、保存処理を行っていく事業です。

対象資料と成果

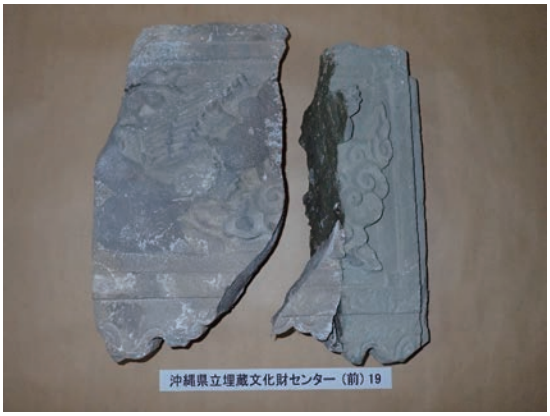
平成30年度は、首里城跡・天界寺跡・大日寺跡から出土した石造物22点の保存処理を実施しました。保存処理には専用の高額な機材や薬品が必要なため、専門とする業者に委託しました。

専門的なクリーニングと化学的な保存処理を行ったことで、劣化への耐久性が増し、長期的な保存や積極的な活用ができるようになりました。

保存処理の様子

保存処理前

保存処理後



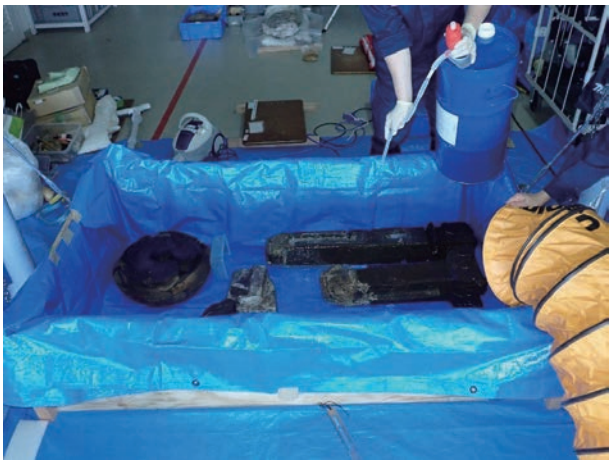
保存処理前

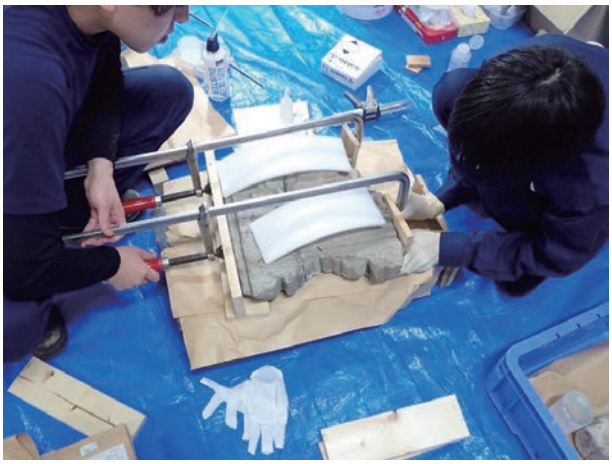
保存処理後

保存処理の作業過程

1　クリーニング作業

2　石材強化剤の含浸



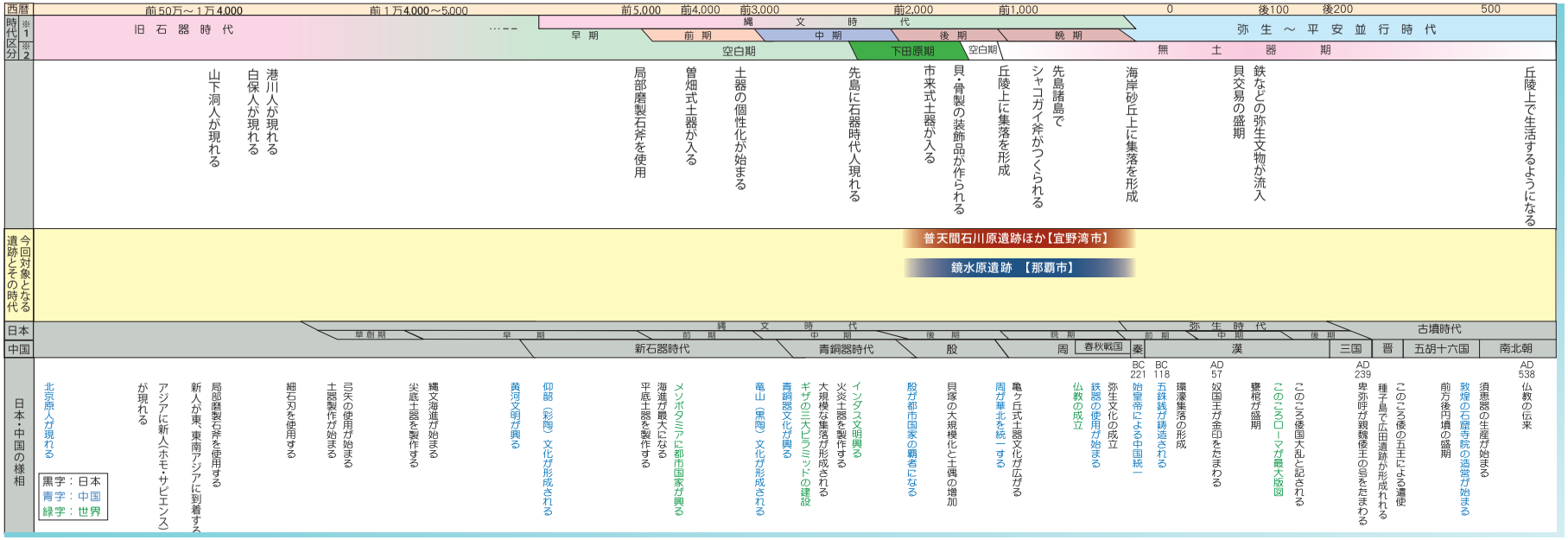


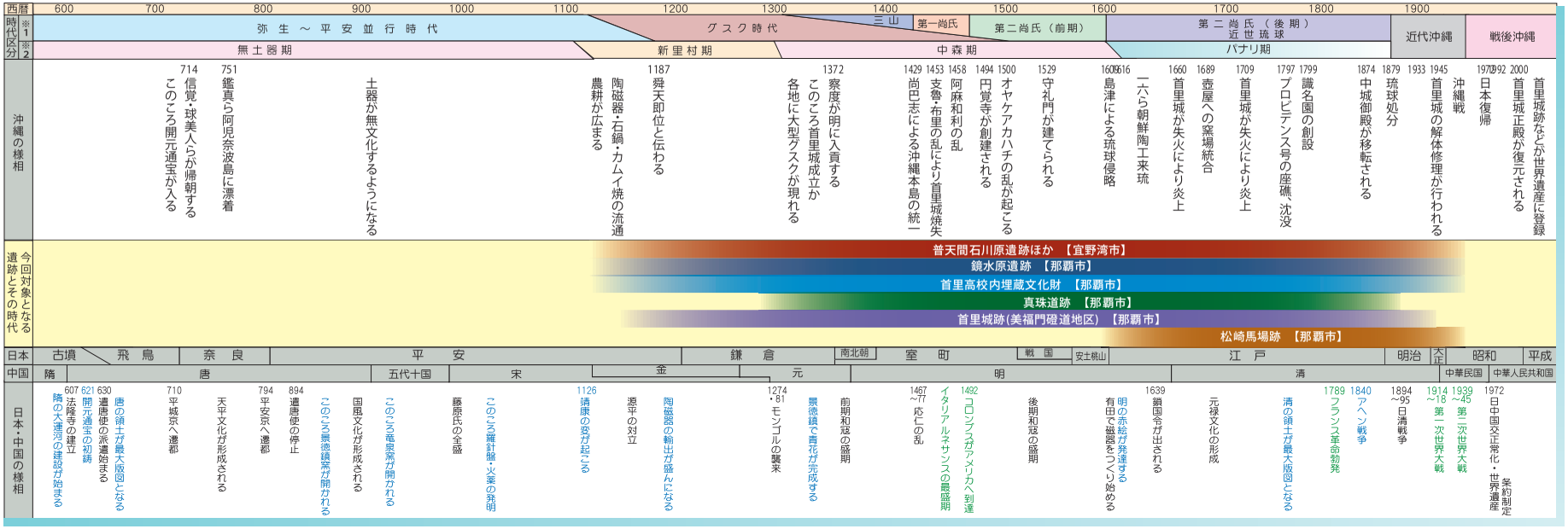
3　脆弱・剥離部分の接着

4　強化補填

沖縄歴史年表

※1…沖縄本島時代区分　※2…宮古・八重山諸島時代区分





発掘調査のきっかけ（契機）とは

一概に発掘調査といっても、そのきっかけ（契機）や原因がいくつかあります。そもそも、遺跡などの発掘調査は考古学的な手法を用いておこなうわけですが、それによって過去の人たちの生活や行動を復元し、当時の歴史や文化を明らかにしていくことを目的にしています。

発掘調査は、大きく「学術調査」と「行政調査」のふたつに分けることができます。

「学術調査」とは、大学の考古学研究室などの研究機関がおこなう発掘調査で、学術的な目的意識（研究テーマ）を持って取り組まれます。

一方、「行政調査」とは、行政機関（教育委員会など）がおこなう発掘調査で、その契機や原因によって大きく３つに分けることができます。

まず、遺跡（埋蔵文化財）の適切な保護を目的とし、その所在・内容等を把握するための調査があります。

次に、保存・活用のための発掘調査があります。重要な遺跡の評価をおこなうための調査や、史跡指定された遺跡の整備・活用のために行われる調査も含まれます。

最後に、記録保存のための調査があります。この調査は、開発側との調整によって、現地保存ができなくなる遺跡について、開発に先立ち発掘調査をおこなうものです。この調査によって得られた記録類は、消滅した遺跡に代わって、遺跡の内容を後世に伝えるものとなります。

このように、発掘調査にも様々なケースがありますが、いずれの場合も遺跡にメスを入れることには変わりがありません。発掘調査がおこなわれた遺跡は二度と元に戻らないわけですから、より慎重な発掘調査をおこなう必要があります。

現在、県内では当センターや市町村教育委員会、大学の考古学研究室などが実施している発掘調査が毎年数十件ありますので、機会があれば発掘調査現場に足を運んでみてください。

県内の発掘調査情報に関しては発掘調査を実施している市町村教育委員会、
若しくは以下にお問い合わせください。

○沖縄県教育庁文化財課　記念物班　埋蔵文化財担当　　TEL 098-866-2731

○沖縄県立埋蔵文化財センター　調査班　　TEL 098-835-8752

発掘調査速報 2019　関連イベント

◆第 79 回文化講座

参加無料！
予約不要！

下記の遺跡について、当センターの専門員が分かりやすく
解説します！お気軽にご参加ください♪

日時：令和元（2019）年 8 月 10 日（土）
開講 13：30 ～（13：00 開場・受付）
会場：当センター研修室　　先着 140 名

本講座で紹介する遺跡

- 普天間石川原遺跡ほか
- 首里城跡（美福門磴道地区）
- 松崎馬場跡
- 鏡水原遺跡
- 真珠道跡
- 首里高校内埋蔵文化財

次回の催し物のご案内

観覧
無料

令和元年度　埋蔵文化財公開活用合同企画

◆「掘り出された戦前の沖縄」

会期：令和元（2019）年 10 月 23 日（水）～ 11 月 24 日（日）
※毎週月曜、11 月 23 日（土）勤労感謝の日は休所
会場：当センター　企画展示室　　開所時間：9 時～ 17 時（入所は 16 時半まで）
合同開催：沖縄県立博物館・美術館、浦添市、うるま市、沖縄市、恩納村、宜野座村
宜野湾市、金武町、名護市、那覇市、宮古島市

沖縄県立埋蔵文化財センター

発掘調査速報 2019

発行日：令和元（2019）年 7 月 30 日

編集・発行：沖縄県立埋蔵文化財センター（調査班）
〒903-0125　沖縄県中頭郡西原町字上原 193-7
TEL 098-835-8752　FAX 098-835-8754

沖縄　埋文　　検索